

レモン みかん ライムの樹 栽培マニュアル



まずは栽培する場所を決めましょう

鉢植えのまま育てる場合は、風の影響がなく、雨が直接当たらない軒下などに置いてください。
庭植えの場合は、水はけが良く風の影響が少ない場所に植えましょう。

栽培に適した気温

種類	年平均気温	枯れ始める気温
レモン	15.5℃~	-3℃
みかん	15~18℃	-5℃
ライム	15.5℃~	-3℃



レモン
非常に人気の高い栽培樹。5月に花が咲き、その後果実が段々と大きくなる。10月頃から収穫が可能で、10、11月はグリーンレモン、12月頃に果実が黄色くなる。



みかん
栽培しやすい果樹。寒さには比較的強い。12月頃に収穫が可能で、完熟の果実は大変甘くて美味しい。



ライム
レモンと同じ場所での栽培が可能。香りが高く、果肉は緑色。カクテル用に自家植えをされる方が増えてきている。品種はタヒチアンライム。

ご購入時期別の対策を季節ごとにまとめました

春(最適な気候)

太陽の光が良く当たる場所で管理してあげてください。肥料をあげるのにも適した時期ですので、樹幹から20cm程度離れた場所に肥料をパラパラとあげてください。樹に実がたくさん付いている場合は、なるべく早めに摘果をしてあげて、樹の大きさに応じた数まで減らしてあげてください。1mの樹ですと、大体多くても2個程度にしてあげてください。あまり多くの実を付けていると樹にとっては負担が多く、来年の樹勢や実付きに影響します。また、鉢植えから地植えに移し替えられる場合も、この春の時期が一番適しています。

夏

夏の場合の大敵は、土の乾燥です。強い照りが続く場合は、1日に2回程度の割合で、土が軽く湿る程度に水をあげてください。水分が無くなると樹が弱り、葉が落ちてしまったりしますので、乾燥は厳禁です。夏場でも、乾燥さえさせずに、水やりをしっかりと頂ければ地植えでの栽培も可能です。

秋

樹はちょうど成熟期を迎えておりますので、特に何もしていただくことはありません。もしレモンの実が付いていたら、樹がまだ小さい場合は、早めに収穫してあげてください。実はたくさんのエネルギーを消費しますので、樹が小さいうちはなるべく樹に負担がかからないように、実を早めに収穫して上げたり、実の数を減らしてあげることが、来年の収穫や樹の樹勢維持に繋がります。

冬

レモンの樹は、基本的には寒さに強くない植物です。日本での栽培北限は茨城県くらいだと言われております。寒い地域での栽培では特に寒さ対策が必要です。鉢植えの場合は、寒さの厳しい期間や雪の時期は屋内で管理してあげてください。地植えで屋内への避難が難しい場所では、農業用被覆資材(パオパオ)などを使って、寒さの厳しい時期だけレモンの樹を覆って保護してあげてください。特に雪の良く降る場所では、最悪の場合レモンの樹が枯れてしまうので、十分ご注意ください。

栽培に関するサポートも承りますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

農業生産法人有限会社柑香園

創業明治四十四年。
観音山
フルーツガーデン
紀州kannonyama fruit garden

フルーツでお客様と地域に潤いを。100年以上続く伝統と文化。

どうぞお気軽にお電話下さい(へ) 国産 フルーツ
0120-593-262 (通話料無料)
〒649-6523 和歌山県紀の川市下丹生谷557
TEL: 0736-73-4095 FAX: 0736-73-3210
E-mail: info@kannonyama.net
URL: http://www.kannonyama.com



生育サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育サイクル			春枝		夏枝		秋枝					
				開花		果実肥大						
			果実成熟							果実成熟		
管理作業			植付・植替				摘果					
		剪定 (2年目以降)			剪定 (植え付け後)							
		施肥		施肥		施肥				収穫 (レモン、みかん、ライム)		施肥

生育サイクル

1. 樹が小さい時に実った果実について

まず最初にどの果実でも共通で言えることですが、やはり実には多くの養分を必要とします。写真の実が付いている左側の枝葉は黄色くなっています。実の付いていない右側の枝葉は、緑色が濃いです。これは枝葉へ送る栄養よりも、実へ送る栄養を優先しているために、枝葉が栄養不足で黄色くなっているのです。こういう場合は、早めに実を収穫すると枝葉へ栄養がいくようになりますので、枝葉が黄色くなってきて、落葉が多いと感じたら、お早めに収穫して下さい。



→実のある枝と無い枝を比べてみると、葉色の違いがよく分かる。黄色い○の部分実付きの枝、その他は実無し枝。

2. 病害虫対策の必要性

ご家庭で栽培される場合は、回りに恐らく柑橘の樹が多くあるわけではないと思いますので、それほど病害虫に襲われる危険はないかと思えます。ただ、蝶の幼虫(青虫)は、柑橘の葉が好きですので、見つけ次第取り去って頂ければと思います。どうしても病害虫が減らない場合は、ホームセンターなどで農業を購入され、霧吹きなどで防除して頂ければと思います。その際にご不明な点はいつでもご相談下さい。

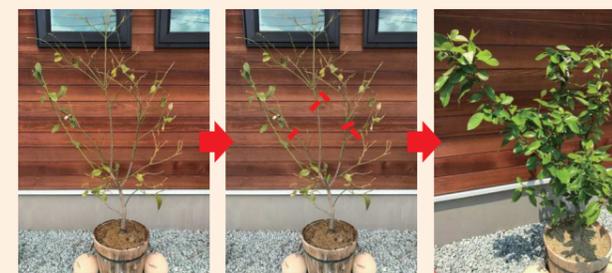
4. 肥料散布の必要性

肥料は基本的にあまり必要ではありません。樹のまわり(根から10cmほど離れた場所)に、同封してある袋入り肥料の1袋を、春、夏、秋の3回くらいパラパラと円状に散布して下さい。葉の数が多ければ根も元気ですので肥料をあげれば効果的ですが、

葉の少ない樹はなかなか肥料を吸い上げることが出来ませんので、葉が少ないからといって多くの肥料をあげることは根が傷んでしまつて逆効果になります。

3. 剪定について

基本的に剪定は、冬の寒さが和らいできた3月頃の実施します。基本的に剪定は弱った枝を切り落とすために行います。そのため、元気な枝は切り落とす必要はございません。込み入っているから切るとか、見た目が悪いから切るというのではなく、弱った枝を切ります。実が付いていた枝、実の重みで垂れ下がってしまった枝、葉が黄色くなった枝などを、目がある部分の少し枝を残して切り落として下さい。養分が少なくなっていたり、元気の無い枝を切り落とすことで、残った枝に養分が行き渡り、枝葉が充実してきます。弱ってしまって葉が少なくなった木も、春の剪定で復活させることが出来ますので、春先の剪定は非常に大事で面白いものです。下記の画像は、弱っていた木を春先の剪定で復活させたものですので、ご参考下さい。



4月3日 お客様からの写真で相談がありました。
4月4日 お客様へこのように剪定依頼
5月30日 このとおり復活

鉢植え栽培時の注意点

- 鉢植えの場合は土の部分が少ないので、保水力が非常に小さいです。そのため一番大事なのが、いかに水分を切らさないかということになります。夏場などは特に水分管理が大事です。夏場は1日2回(朝、夕)の灌水、春秋も一日に1回、冬も2日に1回程度の水やりをお願いします。また水やりが出来ない日があるような場合は、点滴灌水などを導入して頂き、水を絶やさないようにして下さい。ただし、水分が過剰だと根腐れを引き起こすので注意して下さい。水の通り道ができると鉢全体の土が湿らないので、水が全土壌に行き渡っているかの確認をお願いします。
- ベランダなどで栽培される場合は、防風対策が重要になります。葉は栄養を作る工場ですので、葉が落ちることは栄養製造工場が無くなることに繋がります。そのため防風対策をしっかりと頂き、葉が落ちないようにして下さい。
- 日当たりは良い場所の方が生育が良いです。基本光合成をする必要がありますので、日当たりは良いに越したことはありません。ただ、日当たりが良いということは、それだけ水分の蒸発も多いので、1で書いているとおり水やりと気をつけて下さい。冬至の時期で、最低3時間程度の日照が必要です。
- 鉢植えの場合、露地植えに比べるとやはり枝や葉の成長はそれほど大きくはなりません。そのためあまり多くの実を生らせてしまうと、光合成をする葉の能力以上の栄養を実に奪われる事に繋がりますので、樹が弱ってしまいます。葉の大きさにもよりますが、理想としては大きく元気な葉約30枚程度につき実を1玉程度で栽培して頂き、あまり実を多くつけ過ぎないようにして下さい。果実を実らせる部分は、木全体の下1/3の部分にして下さい。あまり上に実らせると、樹が弱ってしまいます。

元気な木には、元気な果実が実ります。

